

氏名	横 井 正
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1669号
学位授与の日付	平成9年9月30日
学位授与の要件	医学研究科病理系寄生虫学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Diversity of epitopes recognized by cytotoxic T lymphocytes that are specific for rejection antigen peptide pRL1a presented on BALB/c leukemia RL δ 1 (BALB/c 白血病細胞RL δ 1上に発現している拒絶抗原ペプチドpRL1aに特異的な細胞傷害性Tリンパ球に認識されるエピトープ部位の多様性について)
論文審査委員	教授 赤木 忠厚 教授 原田 実根 教授 保田 立二

学位論文内容の要旨

BALB/c と CB6F1 マウスの脾細胞を BALB/c 白血病細胞 RL δ 1あるいは pRL1a (IPGLPLSL) ペプチドで刺激し誘導してできた細胞傷害性リンパ球 (CTL) は RL δ 1 細胞上の pRL1a 抗原を認識する。我々は H-2Ld 分子結合能を有する p2Ca (LSPFPFDL) ペプチドと抗 p2Ca CTL を用いてpRL1a アラニン置換体の p2Ca ペプチドに対するH-2Ld分子結合阻害能を調べた。その結果、8番目のロイシンが主要アンカーとして、2番目のプロリンが補助アンカーとして働いていることがわかった。次に4個の pRL1a 特異的 CTL による pRL1a ペプチド認識部位を pRL1a アラニン置換体で感作した P815 細胞に対する傷害活性を測定することで調べた。そして、4個の CTL は各々異なる認識様式をとることがわかった。また、それらの CTL に使われている TCR Vb 遺伝子も異なっていた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究はBALB/c白血病細胞RL δ 1上に発現している拒絶抗原ペプチドpRL1aに特異的な細胞傷害性Tリンパ球(CTL)クローンが認識する、pRL1aペプチドのエピトープ部位を検索したものである。その結果、pRL1a特異的CTLクローンによるpRL1aペプチドの認識様式には多様性があることを明らかにしており、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。